★登場人物★
①ともだちA（おたまじゃくし）　②ともだちB（あひる）
③天使（かえる）　④おばあちゃん（ねこ）

★準備するもの★
（可能であれば）背景３枚
①家の中　②外（遠くに避難所の学校、近くに高台）③避難所の中

～本編～

ナレ：「おたまじゃくしくんはこの前授業で
防災について学びました。
しかし、ちゃんと話を聞いていなかったため、
あまり覚えていません。そんなある日・・・」

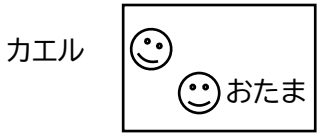
～地震発生～【シーン①家の中】

おたま：「ぼくはおたまじゃくし。今おうちにいるんだ。」

≪ガタガタガタ・・・≫

おたま：「うわー地震だ！どうしよう、
こんな時にどうしたらいいかわかんないよー」

神カエル：「ストップ！！わたしは雲の上からみんなを見
守っているカエルの神様。
おたまじゃくし君が困っているみたい。
おたまじゃくし君がどうしたらいいのか、
みんなで教えてあげて！三つの中から選んでね。



①廊下にでる、②机の下にもぐる、
③ダンゴムシのポーズ、どれかな～
みんなどれだと思う？
（児童）：声
神カエル：「そうだね、みんな良く知ってるね、
正解は②の**机の下にもぐる**　だよ！」
（※聞こえてくる声がバラバラだった場合。。。
「あれ、いろんな数字が聞こえてきたよ。
じゃあ手をあげてもらおうかな、
①だと思う人！②だと思う人！③だと思う人！
正解は。。。②の**机の下にもぐる**　でした！

おたま：「そうだ！机の下に隠れるんだ！」
≪かくれる、ものが落ちる演出≫
おたま：「ふーあぶなかった！！！」
神カエル：「みんなのおかげで助かったね！
机の下なら、物が落ちてきても体を守ることができるね。
廊下に出るのは揺れがおさまってから、
ダンゴムシのポーズは机などの頭を守るものが
ないときにとるよ。あたまをまもるのを忘れずにね。」

おたま：「揺れが収まった…。早く避難所に行こう！」

～場面転換～外に出る、あひる君に遭遇～【シーン②外】

おたま：「あ！あひる君、一緒ににげよう！」

あひる：「地震おっきかったよね」

≪会話をしながら移動≫

あひる：「あ、大事なゲームを

お家に忘れてきちゃった～！　取りに戻ろう！」

神カエル：「ストップ！ここでおたまじゃくしくんは、

なんて言ったらいいかな？

①（おたま：）とりに行っちゃだめ！

②（おたま：）すぐそこだから走って取りに行きなよ

③（おたま：）僕もついていくよ　どれかな？」

（児童）：声

神カエル：「そうだね、みんな良く知ってるね、

正解は①の「取りに行っちゃだめ！」

（※聞こえてくる声がバラバラだった場合。。。

「あれ、いろんな数字が聞こえてきたよ。

じゃあ手をあげてもらおうかな、

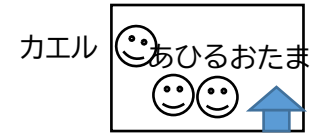
①だと思う人！②だと思う人！③だと思う人！

正解は。。。①の「取りに行っちゃだめ！」

おたま：「津波が来ちゃうから早く逃げよう！！」

あひる：「そうだよね、一緒ににげるよ！」

神カエル：「おっきな地震の後は津波が来ちゃうから早く逃げよう。忘れ物をしても、ぜったいに戻らないようにしよう。ゲームよりも命のほうが大事だよ。」



～場面転換～【シーン③避難途中、ねこのおばあさん】

おたま：「ここはねこのおばあさんの家だ！中にまだいるみたい！」

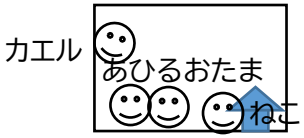
神カエル：「おたまじゃくしくんは、ねこのおばあさんに、なんて声をかけたらいいかな？

①（おたま）一緒ににげよう！

②（おたま）おばあさんの家族が来るまで、待ってた方がいいよ

③（おたま）ここまで津波が来ないから、家にいても大丈夫だよ、

どれでしょう？」



神カエル：「そうだね、みんな良く知ってるね、
正解は、①の「一緒に逃げよう！」
（※聞こえてくる声がバラバラだった場合。。。
「あれ、いろんな数字が聞こえてきたよ。
じゃあ手をあげてもらおうかな、
①だと思う人！②だと思う人！③だと思う人！
正解は。。。①の「一緒に逃げよう！」

ねこ：「あらまあ、無線が聞こえなかったの、
気づかないとこだったわ。声をかけてくれてありがとね。」

神カエル：「逃げるときは周りの人に、
『逃げろー！』『津波が来るぞー！』などといって
逃げようね。」

あひる：「（小声）あのおばあちゃんと知り合いなの？」

おたま：「毎日学校に行くときとかに挨拶をしてたんだ！
耳が遠くて、無線の放送が聞こえないんじゃないか
と思ってね！」

あひる：「すごいね！」

神カエル：「いつも近所の人にあいさつをしていると、
こんな良いこともあるんだね！」

～場面転換～【シーン④避難中の道、
遠くに避難所、近くに高台】

あひる：「小学校結構遠くない？」

おたま：「津波が来ちゃうかもしれないよね…」

神カエル：「どこに逃げたらいいのか、
迷っているみたいだね。
こんな時おたま君たちは、どこににげたらいいのかな？
① 学校、②近くの高台、③津波が来るか海に見に行く、
どれかな？」

（児童）：声

神カエル：「そうだね、みんな良く知ってるね、
正解は**②の近くの高台！**」

（※聞こえてくる声がバラバラだった場合。。。
「あれ、いろんな数字が聞こえてきたよ。
じゃあ手をあげてもらおうかな、
①だと思う人！②だと思う人！③だと思う人！
正解は。。。 **②の近くの高台！**」

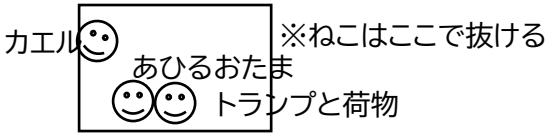
おたま：「近くの高台ににげよう！」

神カエル：「津波は早くてすぐ追いついてしまうんだ。

カエル☺ あひるおたまねこ☺☺☺

だから、なるべく早く高いところに
避難するようにしよう！」
≪ねこおばあちゃんの背中を押しながら山を登る場面≫
あひる：「ふーー。すごい高いところまで来たね。
ここなら安全だ！」

～場面転換～【シーン⑤避難所（体育館）の外または中】
ナレ：「おたまじゃくしくんたちは、高台を通って避難所
に移動したみたいです。」
おたま：「ふーここが避難所か！人がいっぱいいるね！」
あひる：「備蓄（びちく）倉庫から
ものを運び出したりしてるみたい。」
≪小さい子がかけっこ≫
おたま：「おっと、危ない！」
ねこ：「小さい子たちは、かけっこをしてしまっている
みたいねぇ。」
おたま：「そうだよね、遊ぶ場所もないし、
大人の人たちは、物資を運んだりで、
小さい子どもの面倒を見れないみたいだね。」
あひる：「妊婦さんとか、お年寄りが



困った顔をしているよ・・・」

おたま：「僕たちにできることはないかな…？」

神カエル：「おたまじゃくし君たちは、

自分たちに何かできないか、

うずうずしているみたいだよ。

ここの避難所では炊き出し（※説明）が

始まったみたいだけど、こんな時、おたまじゃくし君は

何をしたらいいかな？

もし自分がおたまじゃくしくんだったらどうする？

まわりのおともだちと相談して、

おたまじゃくしくんに教えてあげよう！」

「それじゃあ話してみよう」

≪考える時間　良さそうになったら・・・≫

神カエル：「それじゃあ発表できるお友達は

手をあげてね！」

児童：（発表）

神カエル：「そうだね。●●もできるし、○○もできるね。

（解説）小学生の皆にもできることは

たくさんあるみたいだね。

おや？おたまじゃくしくんとあひるくんは、

何をしようとしているのかな？」

おたま：「みんな集まってー！

トランプ持ってるから皆で一緒に遊ぼう！」

あひる：「僕も荷物はこぶの手伝います！」

神カエル：「おたまじゃくしくんは、小さい子どもたちを

まとめて面倒を見てあげているみたいだね。

あひるくんは、持ち前のちからを活かして

物資を運ぶのを手伝っているみたいだね。」

ナレ「それから、、、おたまじゃくし君たちは

トイレ掃除をしたり、床拭きをしたり、

炊き出しのおにぎりを配ったり、

元気がないお年寄りに声をかけたり、

いろんなことをするようになりました。・・・・

おたま：「僕たちにもできることはたくさんあるんだな！」

全員：「お・し・ま・い。」